

## 巻頭言

# 新年のご挨拶

辻 靖 三



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお祝いを申し上げます。

昨 2009 年は世界的な急激な経済収縮で始まり、各国で大規模な対応策がなされてきて、急激な景気減速は収まりつつあるものの、依然として上り傾向が定着するような情勢ではありませんし、わが国ではデフレ脱却が大きな課題となっています。アジアの一部で回復の動きがありますが、本年には日欧米で混迷を脱し回復が期待されるところです。

国内としては昨夏に政権交代が起こり、大変革時代となりました。政治、行政、経済、社会とほとんどの分野で、改革というスローガンの下、従来の仕組みの検証、見直し、変革が急激に取り組みられました。具体的な実施は昨年から始まりましたが、本格的には 2010 年度の政府予算案、税制改革案、各種法律改正案等の国会での議論を経てからとなります。現下の日本では経済浮揚、雇用、財政再建等が深刻な課題ですが、その解決のためにも、進行する少子高齢化社会での長期的な国家の成長戦略を目指さなければならない事態であると考えられます。

地球上では国家間競争は経済を中心にこれまで以上に厳しいものになるでしょうし、また地球温暖化対策という共通の課題には協調が必要となるでしょう。国家の基盤ができていないと協調もできないので、まず、国家としての安定、成長が重要になると思います。

日本の歴史の中で世界の流れに取り残された遅れを取り戻した時期が大きく 2 回あると言われていますが、1 回目は明治政府となって近代国家に入る時期、

TV ドラマの「坂の上の雲」の時代です。2 回目は世界大戦で荒廃した国土を復興し 1 億の国民が生活を守り発展していった戦後の成長期であったと思います。封建制から立憲制へ、そして民主制へと、それぞれ社会的にも大変革でした。その変革を乗り切って成長し、世界有数の経済国家となりました。

狭い国土で少ない資源でこれが達成できたのは、日本人のひたむきな努力、新しいことへの志向、技術・知恵の集中の結晶によるものでしょう。そこで得たことは、地球上での位置づけの中で日本の立脚点は、日本人自身の進取性、勤勉性であり、ものづくり、知的活動にあると思います。

国家間の複雑になってきた関係の中で、先進国の中で少子高齢化社会化が最も進んだ国として、新しい国の在り方を見出して行かねばならない変革期であり、波高い海原を海図のない航海をしている様ですが、1.3 億人が乗った船の針路を定め、乗り切るキーポイントは、やはり知的活動でしょう。船体である限られた国土は、生活基盤であり経済基盤であります。これを限なく十二分に活動できる機能をもつものとして更に充実していくことが第一であり、その安定した基盤の上で発現される知的活動、生産活動が、針路を見出し、そこに向かう強力な推進力となるものでしょう。

3 回目の変革期の始まりに際し、日本丸が新世界目指して航路平安になるか、波浪に翻弄されるか、先を見据えた舵取りが、乗員である国民の未来を決めていく、大切な、新たな一年が始まります。